

NSK

株式会社 **ナカニシ**
ビジネスレポート

[第58期第2四半期]

平成21年1月1日～平成21年6月30日



▶株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは平成21年6月30日をもちまして、第58期（平成21年1月1日から平成21年12月31日まで）の第2四半期が終了いたしましたので、ここに業績概要につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の経済環境は、昨年のサブプライムローン問題を発端とする世界的な金融危機の最悪期からは脱出して一部に景気の底入れ感が見えてきましたが、日本におきましては、企業の設備投資の抑制は続いており、雇用や所得の減少により個人消費の低迷が続いております。海外におきましては、景気対策、財政出動が内需に結びついている国もありますが、全体的には景気回復への足取りは重く、市場環境は依然として厳しい状況にあります。

このような市場環境を反映し、全体の売上高は減少しましたが、ヨーロッパ市場においては、円高で売上高が目減りしたものの、現地法人の売上高は、厳しい環境の中、2ケタの増収を達成しております。現地に根ざした営業体制が功を奏しており、下期も同様のトレンドで推移すると見込んでおります。また、北米市場においても円高による値下げ圧力の高まりや、米国の景気後退の影響を受けてOEM製品の売上が減少しましたが、自社ブランド製品の売上が堅調に推移しました。

歯科製品関連事業につきましては、ヨーロッパの各販売子会社が「集中」と「強化」に取り組んでおります。具体的には、製品を当社のコアビジネスであるハンドピースに「集中」し拡販を図っております。またインプラント関係機器については、国内及びアメリ



代表取締役社長

中西 英一

カ市場が縮小傾向にあります。欧州では成長が継続していることから、積極的に拡販を図ってまいります。さらに、ドイツの集中倉庫機能を活用することで即納体制を「強化」し、他社よりも「速く」、「安く」、「確実な」アフターサービスの実現を目指します。今後は、これらヨーロッパ市場におけるブランディング、マーケティング、販売、アフターサービスなど一連の成功事例を北米、南米、オセアニアなど他の市場にも展開し、シェアの向上を図ってまいります。

中国については、これまで6つだった代理店を17に増強し、拡販を図ってまいります。

東南アジアについては、今年6月にシンガポールに販売拠点「NSK Asia」を設け、これまで手薄だった当該地域での拡販を目指してまいります。

工業製品関連事業につきましては、経済状況のあおりを受け、大変厳しい状況となっておりますが、スピンドルなど、比較的需要の落ち込んでいない市場向けの製品を投入することで売上減をカバーしてまいります。また、すでに開発と連携した営業体制の強化を目的とした組織変更を行っており、市場のニーズを迅速に製品化し、タイムリーな上市を図ってまいります。

メディカル関連事業につきましては、全体の売上高に占める割合は1.5%程度ながら、様々な国において確実にシェアを伸ばしております。また、国内においても前年同期比50%の増収となっていることから、歯科製品関連事業、工業製品関連事業に続く、第3の事業の柱として引き続き育成を図ってまいります。

当社といたしましては、このような厳しい市場環境を将来の成長の糧にしたいと考えております。不況下でも売れる競争力の高い新製品の開発、販売力・ブランド力の強化、全世界における業界No.1のアフターサービスの構築、経営効率の向上を重要方針として掲げ、邁進してまいります。

■企業理念

堅牢、優美、廉価なものづくりを通して、人類の健康と

● **連結業績** (単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成21年1月 1日 至 平成21年6月30日)	前第2四半期累計期間 (自 平成20年1月 1日 至 平成20年6月30日)	前 期 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)
売 上 高	9,572	11,909	23,020
経 常 利 益	3,355	4,173	6,497
四半期(当期)純利益	2,173	2,624	3,885

● **事業別売上高** (単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成21年1月 1日 至 平成21年6月30日)	前第2四半期累計期間 (自 平成20年1月 1日 至 平成20年6月30日)	前 期 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)
歯科製品関連事業	8,571	10,366	20,059
工業製品関連事業	659	1,209	2,290
そ の 他 事 業	341	333	671
合 計	9,572	11,909	23,020

● **地域別売上高** (単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成21年1月 1日 至 平成21年6月30日)	前第2四半期累計期間 (自 平成20年1月 1日 至 平成20年6月30日)	前 期 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)
国 内	2,034	2,345	4,868
北 ア メ リ カ	2,094	2,376	4,473
ア ジ ア	1,245	1,447	2,856
ヨ ー ロ ッ パ	2,900	3,956	7,514
そ の 他	1,297	1,783	3,307
合 計	9,572	11,909	23,020

より良い社会を実現し、全世界の人々との和を広げる。



国際デンタルショー (IDS) へ出展

今年3月、ドイツ・ケルンにおいて、歯科業界における世界最大規模の展示会、国際デンタルショー (IDS) が開催されました。今回は、1,820社の企業が出展し、24日から28日までの5日間の開催期間中、世界各国より延べ10万人を超す入場者が訪れました。ここでの出展内容は開催地ドイツのみならず文字通り世界へ発信されるという、極めて重要な展示会です。

当社は、新製品を主軸として全ラインナップをフランス人デザイナーによる近未来的なデザインのブースに展示するとともに、それらにコンセプトを合せた主力製品の広告パネルを会場内外に設置してブランドイメージを訴求しました。

これらの結果、世界各国の代理店・大手ディーラーからNSKブランド、NSK製品に対し非常に高い評価を頂くなど、IDSへの出展を通してNSKブランドの確立とイメージアップが確実に図られたと確信しております。

また、当社のIDSにおける活動は、日本のメディアにも取り上げられ、特集記事が組まれるなど、大きな注目を集めました。



中国の歯科大学へ奨学金

当社は、今年度より、中国における歯科大学の中でも特に優秀とされる4校を選び、それぞれの大学で勉学に励む成績優秀な学生に対して、奨学金の支給を開始しました。中国では、先進国に比べて歯科医師の数が大幅に不足しており、国家レベルで医療の充実を強力に推進しております。上海に拠点をもち、これら各大学への製品の納入や新製品開発での協力などの相互交流を続けてきた当社としては、社会貢献の一環として、また、中国歯科分野におけるNSKブランドのより一層のイメージ向上を目的に今回の奨学金制度を設けました。

今年5月には、中国四川省成都において奨学金証書授与式が行われ、当社社長 中西英一から奨学生に証書が手渡されました。



「NSK Asia」シンガポール事務所の開設

今年6月、当社としては12番目の海外営業・サービス拠点となる「NSK Asia」をシンガポールに開設いたしました。「NSK Asia」は、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、カンボジア、インドネシア、フィリピン、インドなど、新興市場として今後ますますの発展が予想される地域を営業エリアとしており、当社では、「NSK Asia」を足がかりとして、これらの地域をはじめとする東南アジア地域でのシェアNo.1を目指し、売上の伸張を図ってまいります。



NEW PRODUCTS

NEW Surgic XT Plus

インプラント需要の拡大に応じて、既存製品のマイナーチェンジをした機種を上市しました。新機種「Surgic XT Plus」は、市場で高い評価を受けているインプラント用モーターSurgicシリーズの基本性能をさらに向上させ、インプラント治療をする術者のニーズにより応えられる新鋭機です。

今年7月よりヨーロッパにて先行発売しております。



<製品特徴>

- Surgicシリーズの伝統を受け継ぐ高いトルク精度
- 大型LCD採用による使いやすさの向上
- トルクカリブレーション機能付により、高いトルク精度を維持

NEW Varios 970

予防歯科、歯周病歯科が欧米、日本を中心に益々重要な治療になっている中、その治療で中心的な製品である超音波スケーラーの新機種「Varios 970」を今年6月よりヨーロッパで先行して発売開始しました。従来の「Varios 750」の優れた特徴を踏襲し、それに加えて、負荷に応じてパワーをコントロールするフィードバック回路をより洗練させ、操作性、信頼性を更に向上させました。



<製品特徴>

- 使い易さを徹底的に追求した業界No.1クラスのスリムなハンドピース
- 自然光に近いLEDライト採用による患部視認性の向上
- 2本のボトルを搭載することにより、治療目的に合わせた交換などの手間を軽減
- フィードバック回路を搭載した新開発の電子回路による安定したパワーの供給
- 診療室にマッチした新デザイン

▶ 営業の概況

当第2四半期連結累計期間は、世界的な景気減速に加え、円高による輸出競争力低下を背景にほぼ全てのセグメントで需要が低迷し、売上高は9,572百万円（対前年同四半期2,337百万円減）となりました。一方、前期末の急激な円高も落ち着きを見せたことにより為替差益559百万円の計上等により経常利益は3,355百万円（対前年同四半期817百万円減）、加えて従業員に対する養老保険の満期返戻による特別利益303百万円の計上等により四半期純利益は2,173百万円（対前年同四半期450百万円減）となりました。

事業の種類別の業績は以下のとおりであります。

【歯科製品関連事業】

市場の需要減に伴う売上の減少に加えて、外貨建売上高の円換算額が円高ドル安ユーロ安に伴い減少いたしました。また、欧州においては、ドイツ集中倉庫が稼動したことに伴い、欧州代理店が保有する在庫削減を進めております。この結果、売上高は、8,571百万円（対前年同四半期比17.3%減）、営業利益は、3,714百万円（対前年同四半期比26.0%減）となりました。

【工業製品関連事業】

景気の落ち込みを背景として、国内外で企業の大幅な生産調整や設備投資意欲の減少により、当社の製品需要も大きく減少しました。この結果、売上高は、659百万円（対前年同四半期比45.5%減）、営業利益は、218百万円（対前年同四半期比52.0%減）となりました。

【その他事業】

修理等サービスは、景気減速の状況では、買い替えのサイクルが長引く傾向から、修理等が増加する傾向にあります。この背景から売上高は、341百万円（対前年同四半期比2.4%増）、営業利益は、60百万円（対前年同四半期比35.4%減）となりました。

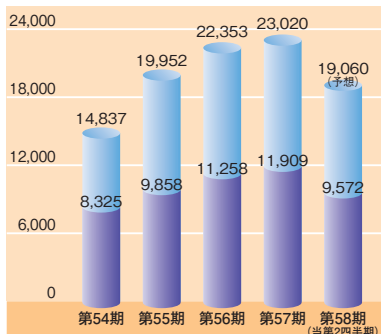
▶ 連結財務ハイライト



■ 通 期
■ 第2四半期累計(会計)期間

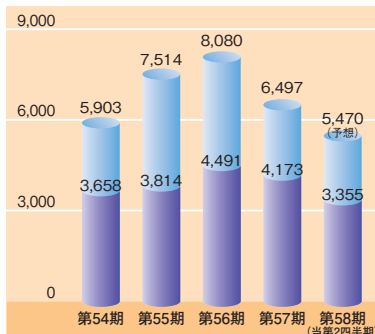
● 売上高

(単位: 百万円)

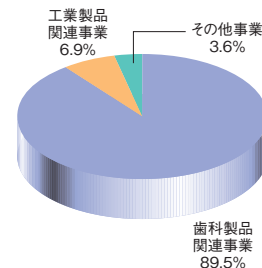


● 経常利益

(単位: 百万円)

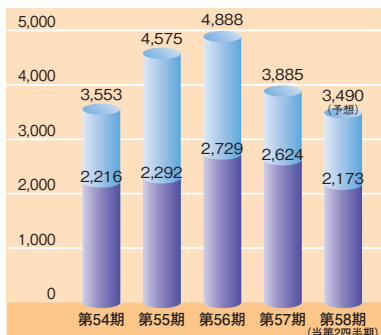


● 事業の種類別売上高比率



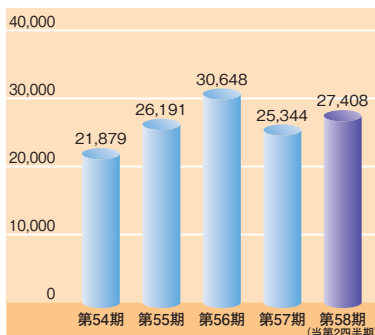
● 四半期(当期)純利益

(単位: 百万円)

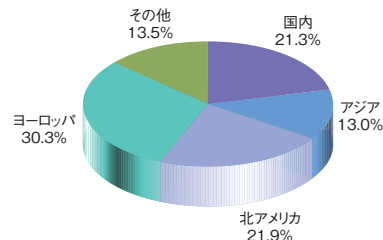


● 純資産

(単位: 百万円)

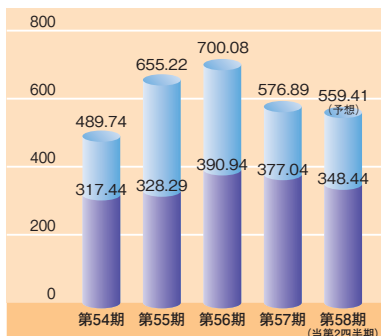


● 地域別売上高比率



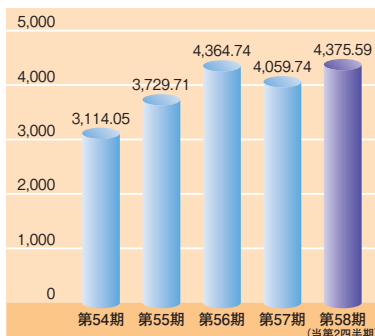
● 1株当たりの四半期(当期)純利益

(単位: 円)



● 1株当たりの純資産

(単位: 円)



注) 第54期会計年度は、決算期変更のため、10ヶ月間(平成17年2月21日から平成17年12月31日まで)の決算になっております。

▶ 連結決算の状況

● 第2四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当第2四半期末 (平成21年6月30日現在)	前 期 末 (平成20年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	21,887,344	17,967,837
現金及び預金	9,775,411	7,502,067
受取手形及び売掛金	2,728,173	3,140,230
有価証券	3,144,556	1,078,145
たな卸資産	5,296,156	5,538,786
繰延税金資産	581,803	385,832
その他	377,024	331,891
貸倒引当金	△15,783	△9,115
固定資産	10,998,771	12,142,627
有形固定資産	3,905,911	3,939,873
建物及び構築物	3,863,779	3,771,239
機械装置及び運搬具	1,749,038	1,729,869
土地	861,771	850,707
建設仮勘定	74,983	85,777
その他	1,740,978	1,610,662
減価償却累計額	△4,384,641	△4,108,383
無形固定資産	554,226	514,683
投資その他の資産	6,538,634	7,688,070
投資有価証券	3,669,073	4,447,598
関係会社株式	11,096	158,033
関係会社出資金	3,401	3,199
保険積立金	1,671,334	1,888,352
長期預金	500,000	500,000
繰延税金資産	512,160	524,960
その他	173,661	168,020
貸倒引当金	△2,094	△2,094
資産合計	32,886,115	30,110,465

Point

資産の部について

総資産は前期末と比べ2,775百万円増加しました。
 主な理由は、現金及び預金が2,273百万円、有価証券が2,066百万円増加したことなどにより流動資産が3,919百万円増加した一方、投資有価証券の売却及び養老保険の満期に伴う保険積立金の減少などにより固定資産が1,143百万円減少したためであります。

(単位：千円)

科 目	当第2四半期末 (平成21年6月30日現在)	前 期 末 (平成20年12月31日現在)
負債の部		
流動負債	4,346,816	3,046,632
買掛金	449,885	391,577
短期借入金	1,321,961	1,074,928
未払法人税等	1,428,351	539,266
その他	1,146,618	1,040,859
固定負債	1,130,757	1,718,960
繰延税金負債	1,824	2,366
長期借入金	535,754	1,141,990
退職給付引当金	282,028	269,103
役員退職慰労引当金	311,150	305,500
負債合計	5,477,573	4,765,592
純資産の部		
株主資本	27,479,438	25,716,453
資本金	867,948	867,948
資本剰余金	1,163,548	1,163,548
利益剰余金	32,868,913	31,105,640
自己株式	△7,420,972	△7,420,684
評価・換算差額等	△181,222	△388,524
その他有価証券評価差額金	△8,530	△39,385
為替換算調整勘定	△172,691	△349,139
少数株主持分	110,325	16,944
純資産合計	27,408,541	25,344,872
負債・純資産合計	32,886,115	30,110,465

Point

負債・純資産の部について

負債は前期末と比べ711百万円増加しました。
 主な理由は、借入金の返済に伴い359百万円減少した一方、未払法人税等が889百万円増加したことなどによります。
 純資産は前期末と比べ2,063百万円増加しました。
 主な理由は、利益剰余金が1,763百万円増加したことなどによります。

●第2四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)	(自 平成20年1月1日 至 平成20年6月30日)	(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	9,572,228	11,909,736	23,020,328
売上原価	3,825,659	4,461,410	8,684,260
売上総利益	5,746,568	7,448,325	14,336,067
販売費及び一般管理費	3,025,357	3,202,693	6,514,965
営業利益	2,721,210	4,245,632	7,821,102
営業外収益	665,407	198,883	337,462
営業外費用	30,944	271,452	1,661,562
経常利益	3,355,674	4,173,062	6,497,002
特別利益	306,261	1,693	9,772
特別損失	187,376	2,172	326,091
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,474,559	4,172,583	6,180,683
法人税、住民税及び事業税	1,476,018	1,561,828	2,263,432
法人税等調整額	△203,508	△17,894	27,076
少数株主利益	28,221	4,475	4,772
四半期(当期)純利益	2,173,827	2,624,173	3,885,402

●第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)	(自 平成20年1月1日 至 平成20年6月30日)	(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,306,179	1,829,964	4,256,619
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,165,743	1,097,350	4,446,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	△861,828	△1,012,205	△6,080,554
現金及び現金同等物に係る換算差額	199,687	△31,967	△690,591
現金及び現金同等物の増(減)額	1,478,294	1,883,141	1,932,226
現金及び現金同等物期首残高	5,480,656	3,521,342	3,521,342
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	162,554	—	27,087
現金及び現金同等物四半期末(期末)残高	7,121,505	5,404,483	5,480,656

Point

損益計算書について

売上高は世界的な景気減速に加え、円高による輸出競争力低下を背景に需要が低迷し、前年同期比2,337百万円の減収となる9,572百万円にとどまりました。一方、前期末の急激な円高も落ち着きを見せたことにより営業外収益において為替差益559百万円を計上。また、養老保険の満期返戻による特別利益303百万円の計上等をしたものの、四半期純利益は対前年同四半期比450百万円の減益となる2,173百万円となりました。

Point

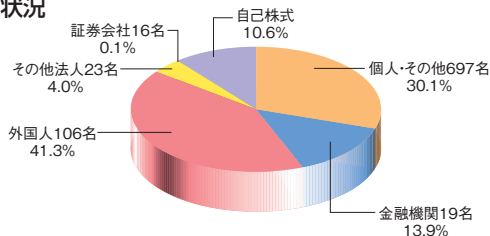
キャッシュ・フロー計算書について

営業活動によるキャッシュ・フローは堅調に推移しました。投資活動では投資有価証券の売却や定期預金の払戻により資金を得、定期預金の預入により資金を使用しました。財務活動では借入金の返済及び配当金の支払により資金を使用しました。これらの結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は前期末より1,640百万円増加しました。

株式の状況 (平成21年6月30日現在)

- 発行可能株式総数……………25,000,000株
- 発行済株式の総数…………… 6,983,960株
- 株主数…………… 862名

株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数	議決権比率
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	999千株	16.0%
中 西 英 一	489千株	7.8%
中 西 賢 介	395千株	6.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	322千株	5.2%
中 西 崇 介	286千株	4.6%
中 西 千 代	286千株	4.6%
ビー・エイチ フォー フィデリティ ロープライス ストック ファンド	271千株	4.3%
ジェー・イー・シー・オムニバス・ユース・ペンション・トリートメント・ジャスダック380052	265千株	4.3%
株式会社足利銀行	151千株	2.4%
中 西 敏 雅	140千株	2.2%

会社概要 (平成21年6月30日現在)

社 名	株式会社 ナカニシ (NAKANISHI INC.)
設 立	昭和28年2月
代 表 者	代表取締役社長 中 西 英 一
資 本 金	867,948,542円
従 業 員 数	607名 (正社員469名)
本 社	栃木県鹿沼市下日向700番地
事 業 所	本社・工場／東京事務所 大阪事務所 ドバイ事務所 (UAE) モスクワ事務所 (ロシア) シンガポール事務所 (シンガポール)
主要関係会社	NSK America Corp. (アメリカ) NSK Europe GmbH (ドイツ) NSK France SAS (フランス) NSK Shanghai Co., Ltd. (中国) NSK Oceania Pty Ltd. (オーストラリア) NSK United Kingdom Ltd. (イギリス) NSK Dental Spain SA (スペイン) NSK Euro Holdings SA (ルクセンブルグ)
主要取引銀行	足利銀行、みずほ銀行、 三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行

役 員	代表取締役会長	中 西 崇 介
	代表取締役社長	中 西 英 一
	専務取締役	中 西 賢 介
	常務取締役	押 田 薫
	常勤監査役	戸 田 洋 子
	監査役(社外)	野長瀬 裕 二
	監査役(社外)	竹 澤 一 郎

▶株主メモ



- 事業年度
- 定時株主総会
- 配当金受領株主確定日

1月1日から12月31日まで
 毎年3月中
 期末配当金 12月31日
 中間配当金 6月30日
 ※中間配当の実施を取締役会で決議した場合

- 株主名簿管理人
- 郵便物送付先

東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

- 電話照会先

電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

- 単元株式数
- 株式取扱手数料
- 公告方法

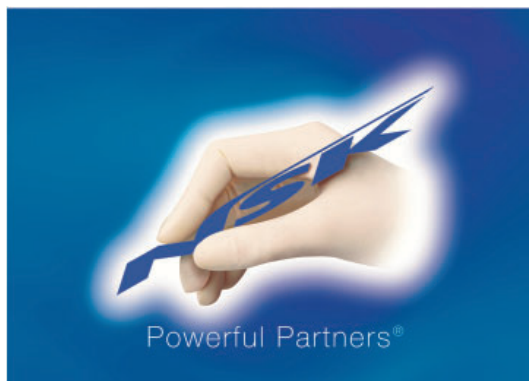
100株
 無料
 電子公告 <http://www.nsk-nakanishi.co.jp>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

▶ホームページのご案内

ホームページアドレス <http://www.nsk-nakanishi.co.jp>





本社：〒322-8666 栃木県鹿沼市下日向700番地
TEL 0289(64)3380 FAX 0289(62)5636

このレポートは再生紙を使用しております。